しおさい通信

No.4
平成２４年８月号

指定就労継続支援Ｂ型事業所　しおさい
三崎：銚子市三崎町 3-82　　TEL　23-9012
春日：銚子市春日町 2058-1　　TEL　25-3475

きんめだいまつり参加

▲出店準備中

７月１５日（日）、銚子マリーナ特設会場において、「第１８回きんめだいまつり」が開催されました。薄曇りで海風が強めに吹き、やや肌寒い天気でしたが、早朝から金目鯛を買い求めるために並んでいる人達を横目で見ながら、午前８時頃からパンや布製品の販売準備を進めました。手際良く番重内に並べられたパンやパウンドケーキ、クッキー類が、朝日を浴びて輝いていました。まつりの開会は午前９時半でしたが、それより前からまつりの関係者や観光客の方々が、しおさいのパンを見つけてボチボチと購入して下さいました。手軽に食べられて腹持ちが良いパンは、小腹を満たすのに最適の食べ物のようでした。(“腹が減っては戦は出来ぬ”と言うことわざがあります…実行委員会の皆さんお許し下さい)

▲販売準備完了

開会式終了後は、市民や観光客が続々と訪れ、会場内にはキンメダイの煮付けやアラ汁の試食に長蛇の列が出来て、大変な賑わいになりました。この頃になると、パンも飛ぶように売れ出し、次から次へと控えの番重からパンを補充するような状態で、職員と販売に参加したしおさいのメンバーは、うれしい悲鳴を上げました。お陰様で用意した約５００個のパンは、午前１１時頃にほぼ完売してしまいました。また、しおさい春日で製作した布製品も、気に入った柄のものを選び出して購入して行く姿も見られました。

しおさい三崎では、きんめだいまつりで販売するパンを造るため、職員５人が前日の午後１１時に出勤して、徹夜で作業を進め、午前７時半頃に焼きあがったパンを会場に運びました。皆さんお疲れ様でした。そして、パンを購入して下さった皆様、ありがとうございました。

新聞報道によれば、きんめだいまつりには、千葉ブランド水産品に認定されている「銚子つりきんめ」と呼ばれるキンメダイ約５０００匹が用意され、約３万人の人出で賑わったそうです。

▲お客様が次々来店するしおさいブース

香取市の瑞穂地区社協来所

▲瑞穂地区社協の皆さん

７月１９日（木)、香取市社会福祉協議会に属する瑞穂地区社会福祉協議会の２２名が来所され、しおさい春日とのぞみの見学を行いました。

到着後まず、しおさいとのぞみについて、山本初江施設長と加瀬泰雄理事長（のぞみ）が、それぞれの施設の特徴や作業内容などの説明を行いました。その後の質疑応答では、就労継続支援Ｂ型についてや苦労していること、トラブル等の有無、うれしかったことなどの質問が寄せられ、山本施設長と遠藤美知子施設長（のぞみ）が丁寧に答えました。続いての施設見学では、各自自由にしおさい春日とのぞみの作業室の様子を見て回られました。しおさい春日では布製品の製造と部品のバリ取り作業などを行っていますが、見学者が直接通所者へ作業内容などを質問している場面もありました。

最後に、しおさいはパン・クッキー類と布製品、のぞみはアクセサリーの販売を行い、皆さんにたくさん購入して頂きました。ありがとうございました。

ジャムパン発売

しおさい三崎では、皆様のご要望にお応えして、ジャムパンを発売しました。価格は１個１００円です。銚子セレクト市場（金曜日)、かんらん（月曜日・水曜日）で販売していますので、是非ご賞味下さい。

編集後記

日本を含む東洋には、四季の他に二十四節気（にじゅうしせっき）と呼ばれる季節の区切りがあります。一番馴染み深いのは、春分や秋分、夏至や冬至だと思います。この他にも季節を表す美しい言葉や漢字が用いられています。さらに二十四節気を三等分して５日ずつに分け、気象の動きや動植物の変化を知らせる七十二候（しちじゅうにこう）という区切りものあります。こうした季節感を表す文化や考え方は今後も大切に残したいものですね。